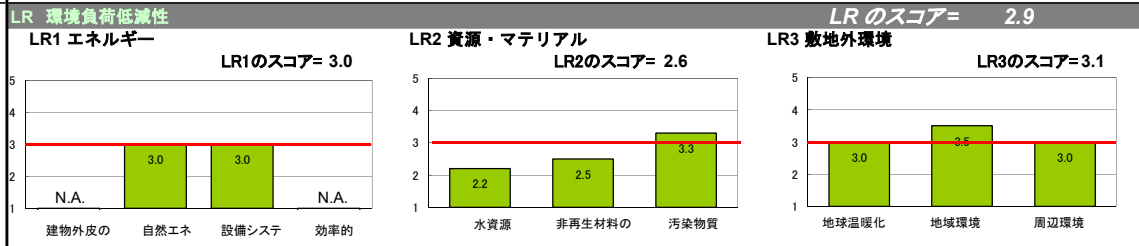
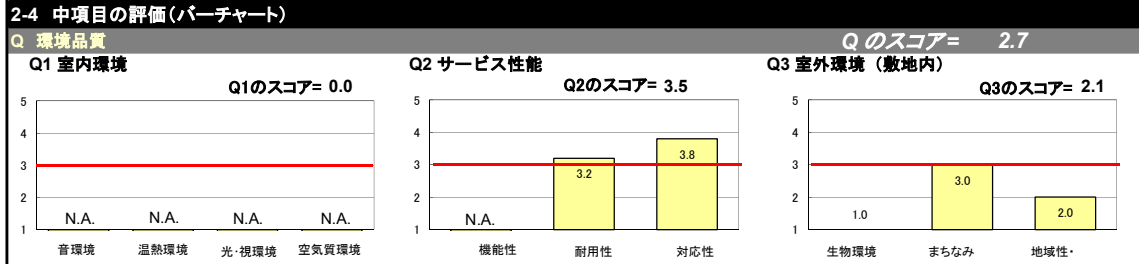
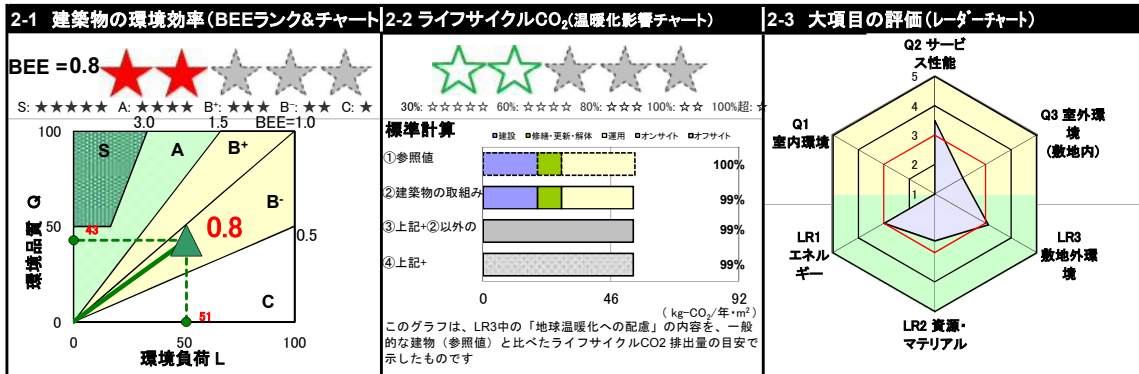


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トモエ工業津島工場	階数	地上2F
建設地	愛知県津島市白浜町番場26-1他(別)	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年12月 予定	評価の実施日	2017年2月2日
敷地面積	7,042 m ²	作成者	藤井建設(株)
建築面積	2,708 m ²	確認日	2017年2月2日
延床面積	3,386 m ²	確認者	藤井光久



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100
 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.2	0.52	-	-	3.2
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.9	0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		外壁仕上げ材の補修必要間隔が30年以上。	3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			内装仕上げ材の更新必要間隔が20年以上。	5.0	0.23	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				5.0	0.09	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な上位3種の2種以上にB以上を使用し、Eは不使用。	3.0	0.08	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.15	-	-	-
2.4 信頼性				3.0	0.23	-	-	-
1 空調・換気設備				2.6	0.19	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備				1.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	②			3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.8	0.48	-	-	3.8
1 階高のゆとり			階高:4450	5.0	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比:0.183	5.0	0.60	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.40	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.31	-	-	-
1 空調配管の更新性				3.5	0.38	-	-	-
2 給排水管の更新性	②		仕上げ材を痛めることなく更新・修繕を容易にできる。	4.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性			仕上げ材を痛めることなく更新・修繕を容易にできる。	4.0	0.17	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.11	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.22	-	-	-
				3.0	0.22	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=			-		-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.39		-	3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	0.61		-	3.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)				3.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)					-		-	
4 効率的運用				-	-		-	-
集合住宅以外の評価				-	-		-	-
4.1 モニタリング				-	-		-	-
4.2 運用管理体制				-	-		-	-
集合住宅の評価					-		-	-
4.1 モニタリング					-		-	-
4.2 運用管理体制					-		-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護				2.2	0.15		-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63		-	2.5
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いていない		5.0	0.50		-	
3 冷媒				2.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮				3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25		-	
燃焼機器を使用無し。大気汚染物質を全く発生しない。							-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制				-	-		-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.50		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.50		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	0.50		-	
2 振動	独自			3.0	0.50		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のガラス面に覆れる光への対策				3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保と建物の長寿命化を目指す。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。化kが区物質の発生しない仕上げ材を採用することのより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	将来の向上とメンテナンスフリーを目指す。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺の景観に配慮し、樹木や緑地帯を配置する。
LR1 エネルギー	対象外建築物の為、特に無し。自主的に外壁内にグラスウールを使用している。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない材料を積極適に採用する。
LR3 敷地外環境	公害に対して十分な対策をとる。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。